

2021年3月期 決算説明会

扶桑化学工業株式会社

2021年5月13日
東証第一部（4368）



- I. 2021年3月期 決算概要
- II. 事業の概況
- III. 2022年3月期 業績予想
- IV. 中期経営計画 (2021年度～2025年度)
- V. Q&A

代表取締役社長
執行役員 管理本部長

杉田 真一
伊藤 裕之

I . 2021年3月期決算概要

2021年3月期（累計期間）決算概要



(単位：億円)	当期実績	前年同期比			2020年5月公表計画比		
		前期実績	増減額	増減率	公表計画	乖離額	乖離率
売上高	422.0	413.1	+8.9	+2.2%	422.0	+0.0	+0.0%
営業利益	96.3	88.3	+8.0	+9.1%	81.5	+14.8	+18.2%
経常利益	97.4	89.5	+7.9	+8.8%	82.5	+14.9	+18.1%
当期純利益	68.0	70.1	△2.0	△2.9%	56.0	+12.0	+21.6%
償却前営業利益	146.5	133.6	+12.9	+9.7%	135.5	+11.0	+8.2%
1株当たり 当期純利益	191.7 円	197.5 円	△5.8 円	△2.9%	157.7 円	+34.0 円	+21.6%

*** 売上高・償却前営業利益、ともに過去最高を更新**

2021年3月期（累計期間）決算概要



(単位：億円)	当期実績	前年同期比			2021年3月修正計画比		
		前期実績	増減額	増減率	公表計画	乖離額	乖離率
売上高	422.0	413.1	+8.9	+2.2%	416.0	+6.0	+1.5%
営業利益	96.3	88.3	+8.0	+9.1%	95.0	+1.3	+1.4%
経常利益	97.4	89.5	+7.9	+8.8%	95.0	+2.4	+2.6%
当期純利益	68.0	70.1	△2.0	△2.9%	66.0	+2.0	+3.2%
償却前営業利益	146.5	133.6	+12.9	+9.7%	145.2	+1.3	+1.0%
1株当たり 当期純利益	191.7 円	197.5 円	△5.8 円	△2.9%	185.8 円	+5.8 円	+3.2%

*** 売上高・償却前営業利益、ともに過去最高を更新**

セグメント別売上高・営業利益【前期比】



(単位：億円)		当期実績	前年同期比		
			前期実績	増減額	増減率
ライフサイエンス事業	売上高	234.1	241.2	△7.0	△2.9%
	営業利益	33.1	43.2	△10.1	△23.5%
電子材料および 機能性化学品事業	売上高	187.9	171.9	+16.0	+9.3%
	営業利益	76.4	57.4	+18.9	+33.0%
(調整額)		△13.2	△12.4	△0.7	+6.3%
営業利益 (全社)		96.3	88.3	+8.0	+9.1%

2021年3月期 四半期別の業績



(単位：億円)		1Q	2Q	3Q	4Q	通期
		(4-6月)	(7-9月)	(10-12月)	(1-3月)	(4-3月)
売上高	当期	102.0	101.3	108.4	110.2	422.0
	前期	99.7	103.5	109.3	100.4	413.1
ライフサイエンス事業	当期	56.7	56.4	58.2	62.6	234.1
	前期	61.1	62.1	61.7	56.1	241.2
電子材料および 機能性化学品事業	当期	45.2	44.9	50.1	47.6	187.9
	前期	38.6	41.4	47.5	44.2	171.9
営業利益	当期	23.4	22.8	25.6	24.4	96.3
	前期	21.2	22.3	25.6	18.9	88.3
ライフサイエンス事業	当期	8.5	8.6	7.5	8.4	33.1
	前期	11.4	12.1	12.0	7.6	43.2
電子材料および 機能性化学品事業	当期	17.8	17.8	21.2	19.4	76.4
	前期	12.8	13.3	16.8	14.4	57.4
(調整額)	当期	△2.9	△3.6	△3.1	△3.5	△13.2

セグメント別売上高・営業利益【過去3年】

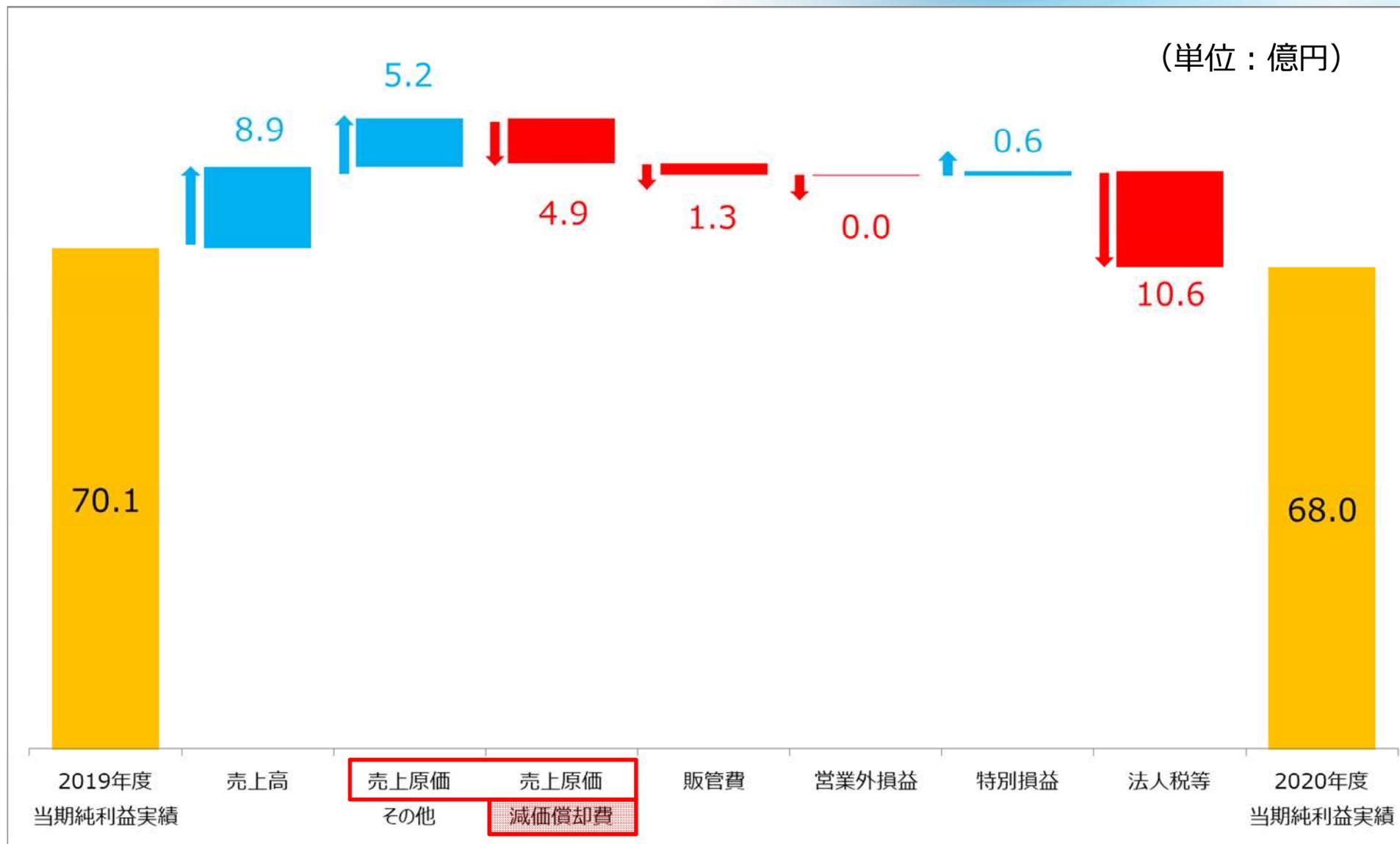


(単位：億円)	19/3期	20/3期	21/3期
売上高	420.7	413.1	422.0
ライフサイエンス事業	252.0	241.2	234.1
電子材料および 機能性化学品事業	168.6	171.9	187.9
営業利益	92.8	88.3	96.3
ライフサイエンス事業	35.1	43.2	33.1
電子材料および 機能性化学品事業	69.6	57.4	76.4
(調整額)	△11.9	△12.4	△13.2
売上高営業利益率	22.1%	21.4%	22.8%
ライフサイエンス事業	13.9%	17.9%	14.1%
電子材料および 機能性化学品事業	41.3%	33.4%	40.7%

2021年3月期 当期純利益増減要因



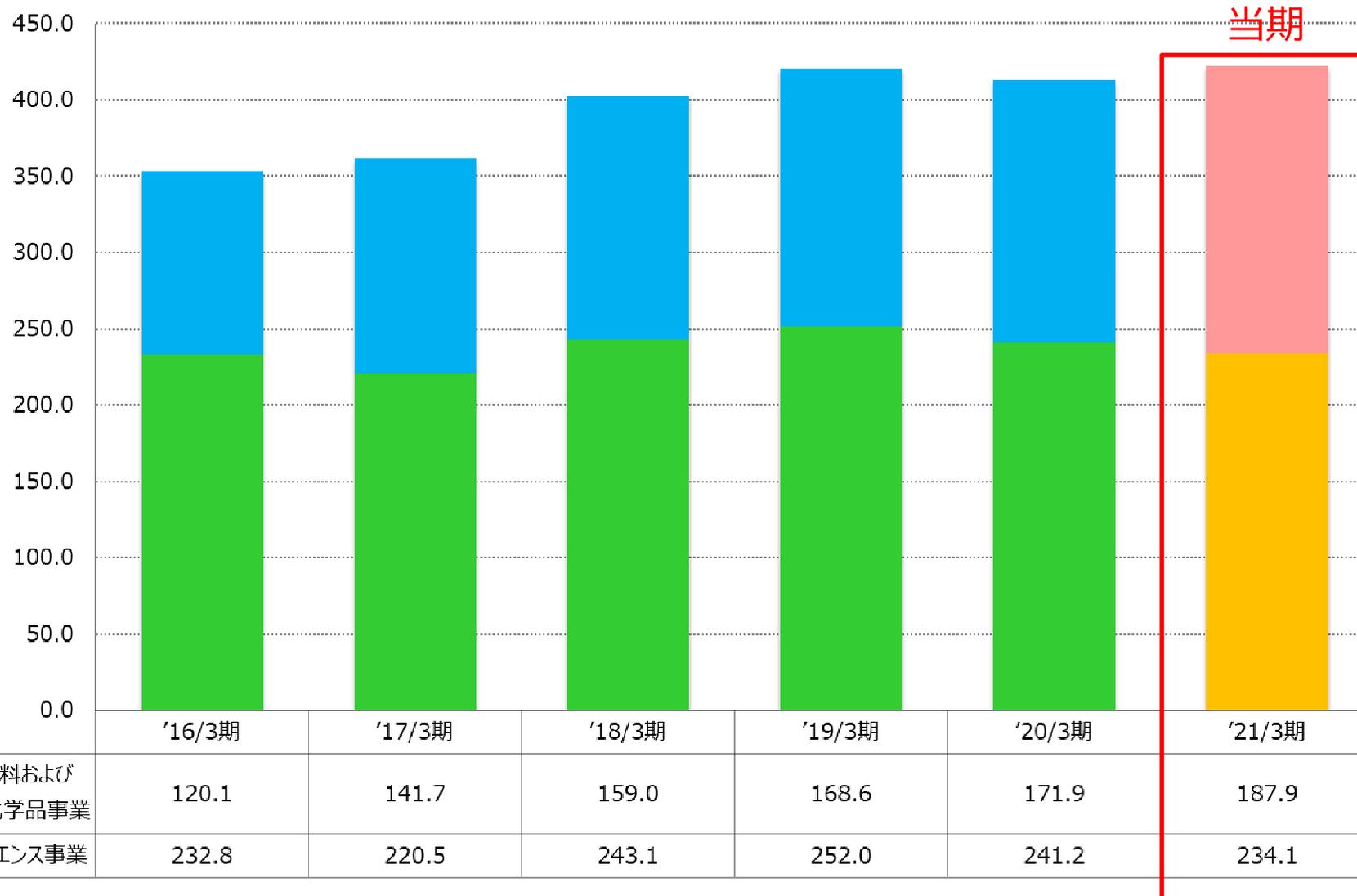
(単位：億円)



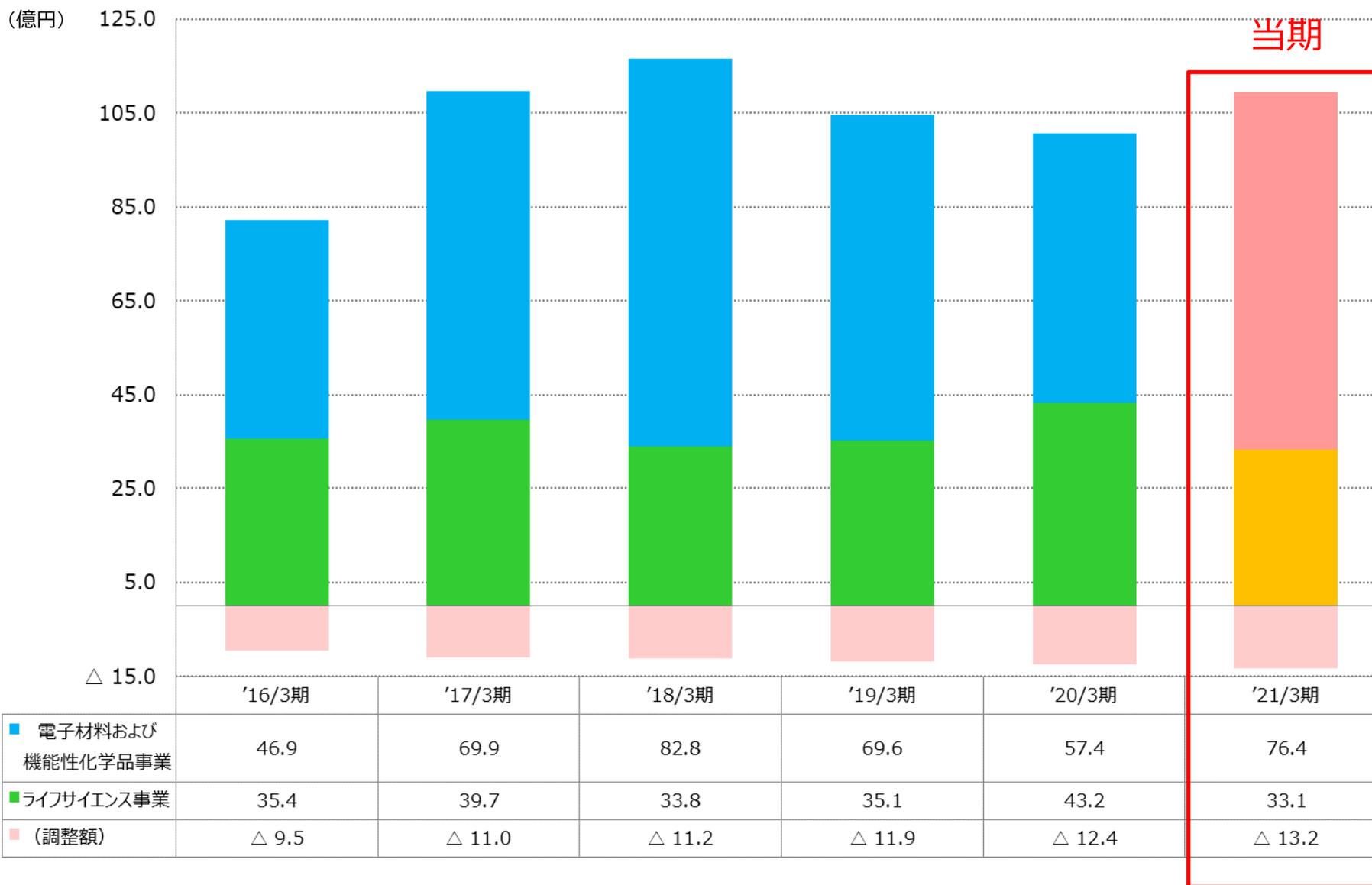
セグメント別売上高推移



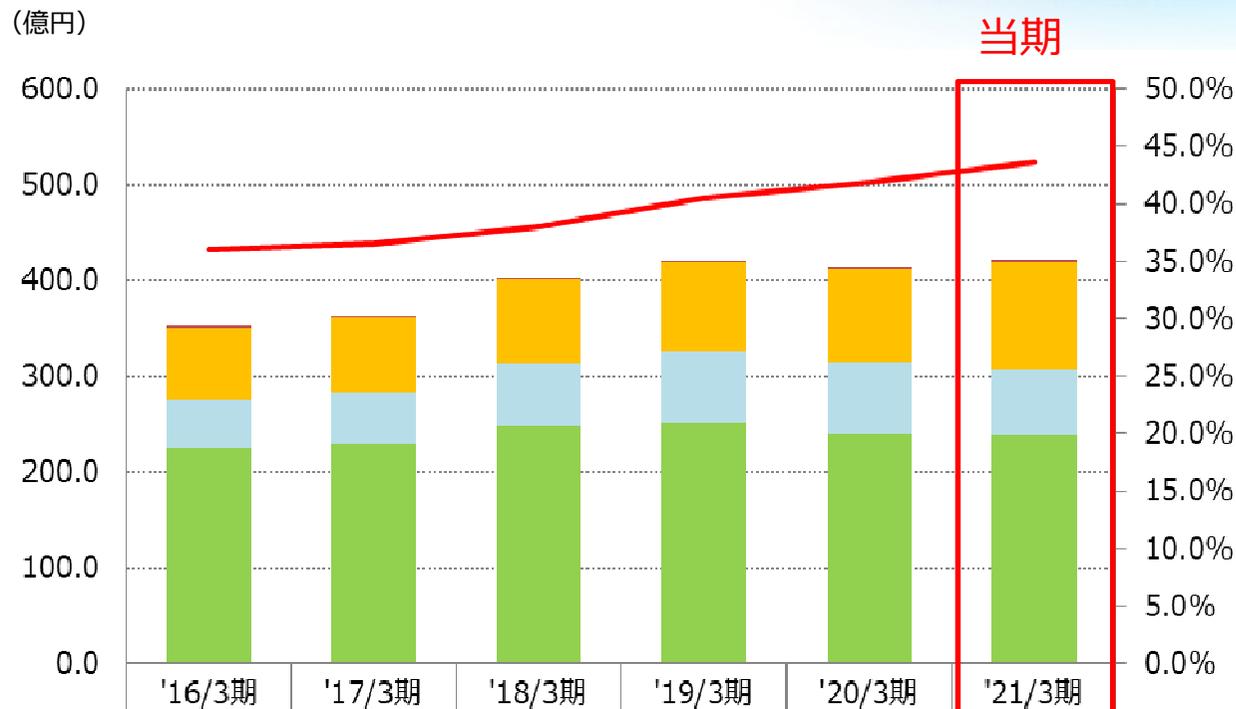
(億円)



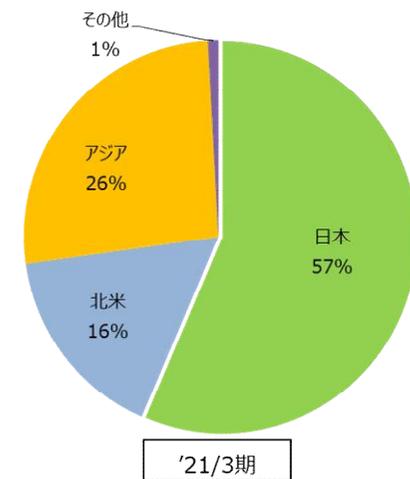
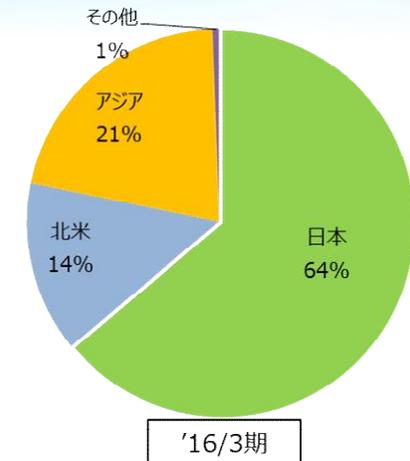
セグメント別営業利益推移



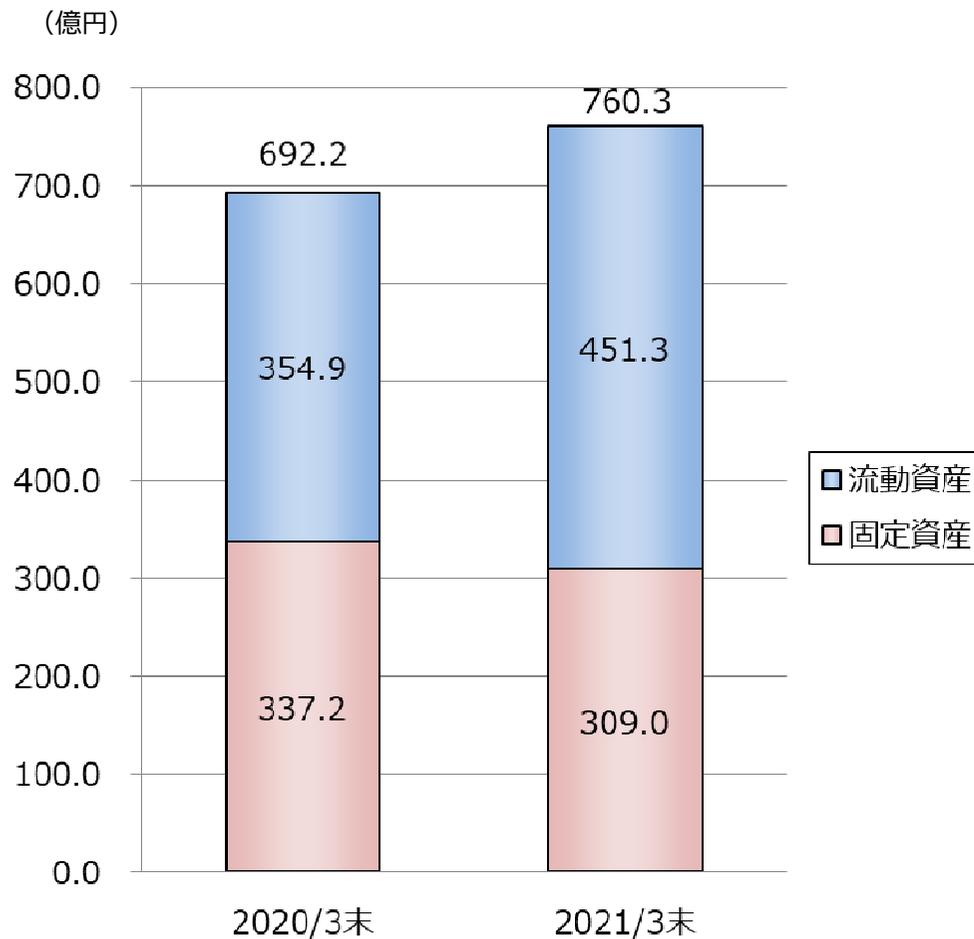
海外売上高推移



■ その他	2.1	1.2	1.1	1.2	2.1	3.6
■ アジア	74.6	77.4	87.3	93.2	96.1	111.1
■ 北米	50.5	53.8	64.3	75.6	74.4	69.0
■ 日本	225.6	229.7	249.3	250.5	240.3	238.2
— 海外売上高比率	36.1%	36.6%	38.0%	40.5%	41.8%	43.6%



資産の状況



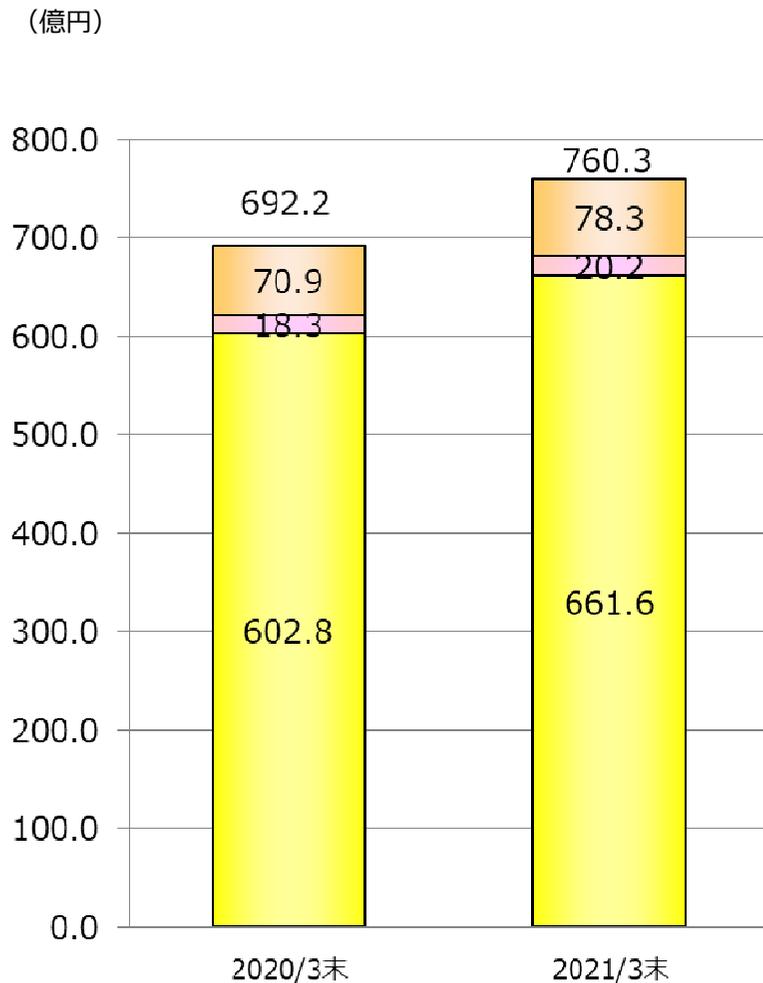
流動資産（前期末比 +96.3億円）

- ・ 現預金の増加

固定資産（前期末比 △28.2億円）

- ・ 減価償却による有形・無形固定資産の減少

負債・純資産の状況



流動負債（前期末比 +7.3億円）

- ・ 未払法人税の増加

固定負債（前期末比 +1.8億円）

純資産（前期末比 +58.8億円）

- ・ 利益剰余金の増加

キャッシュ・フロー計算書



(単位:億円)

	前期 ('20/3)	当期 ('21/3)
営業活動による キャッシュ・フロー	119.3	128.2
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 43.2	△ 26.2
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 16.4	△ 16.3
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△ 1.1	1.9
現金及び現金同等物 の増加額	58.5	87.5
現金及び現金同等物 の期首残高	102.2	160.8
現金及び現金同等物 の期末残高	160.8	248.3

営業活動によるキャッシュ・フロー

- ・ 減価償却費の増加
- ・ 税金等調整前当期純利益の計上

投資活動によるキャッシュ・フロー

- ・ 有形固定資産の取得

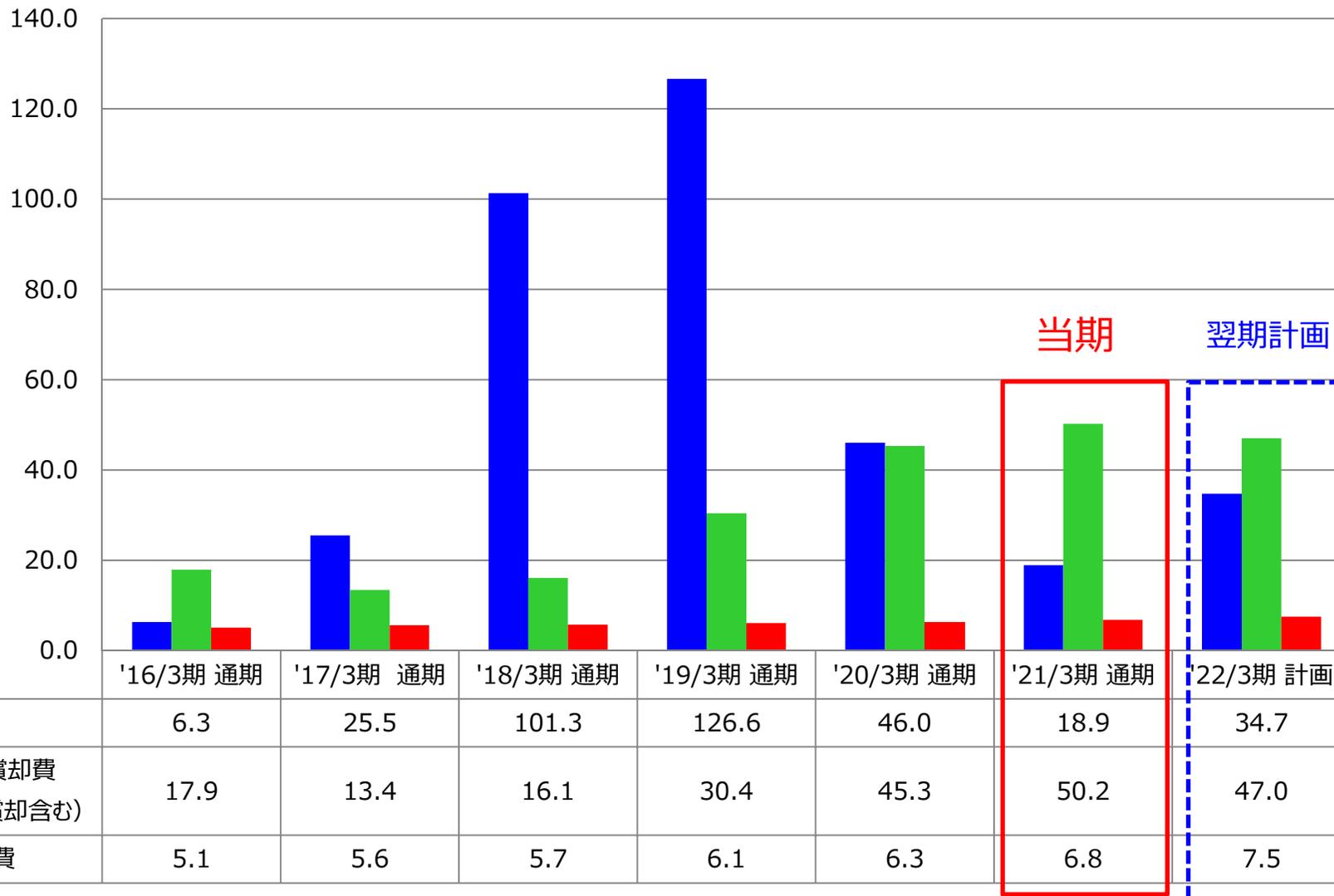
財務活動によるキャッシュ・フロー

- ・ 配当金の支払い

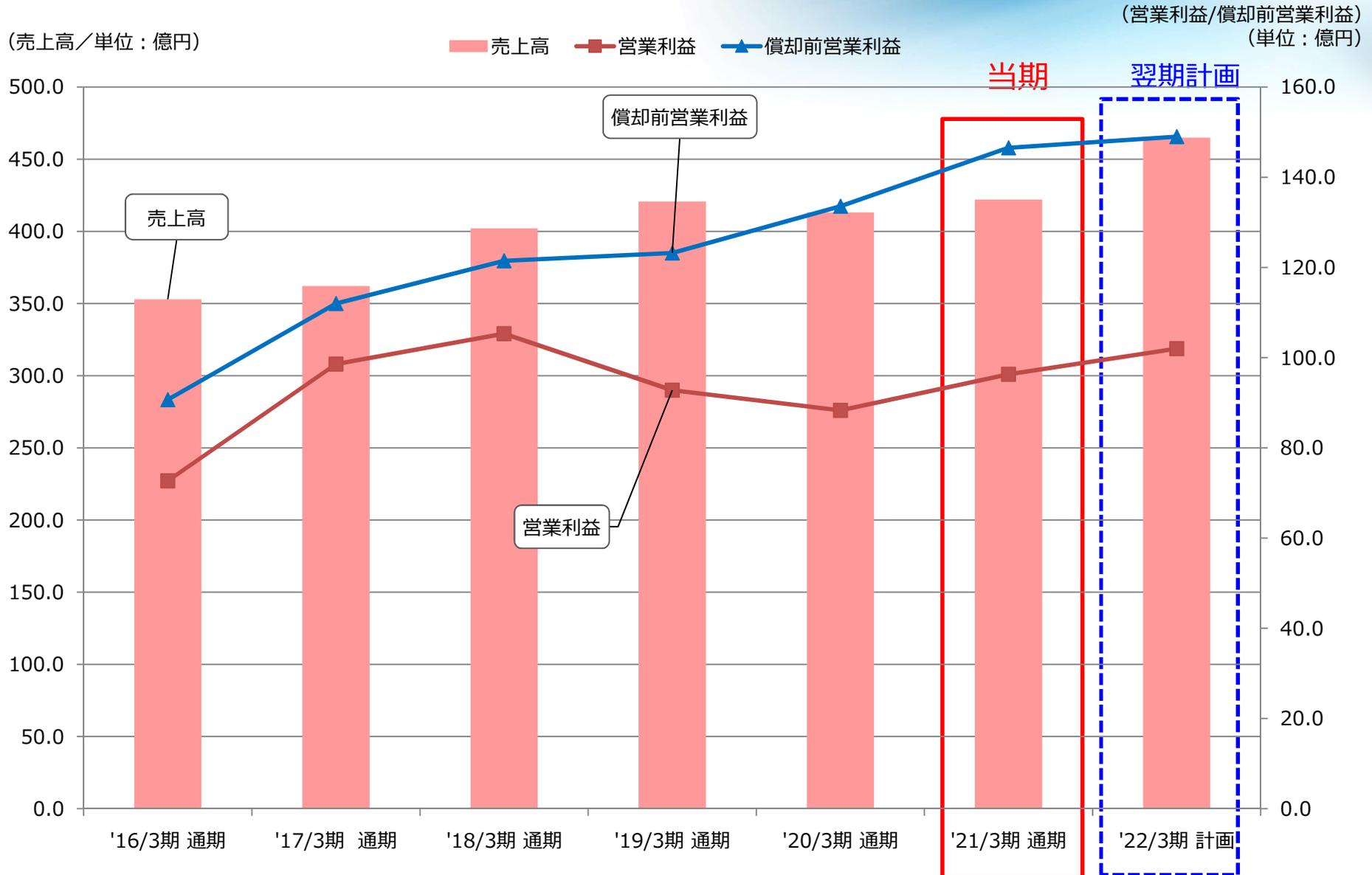
設備投資・減価償却費・研究開発費推移



(億円)



償却前営業利益



Ⅱ．事業の概況



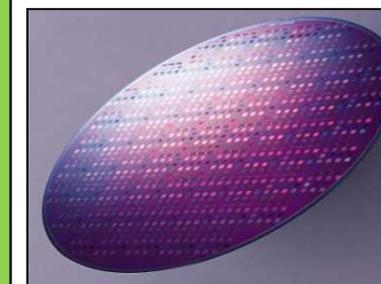
ライフサイエンス 事業

- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- 無水マレイン酸
- フマル酸類
- ビタミンC類
- イタコン酸
- 食品製剤類
- 化成品および製剤
- その他果実酸
(コハク酸類、乳酸類、酒石酸類)



電子材料 および 機能性化学品 事業

- シリカ関連誘導品
 - ・超高純度コロイダルシリカ
 - ・高純度シリカナノパウダー
 - ・高純度オルガノシリカゾル
 - ・アルキルシリケート
- 高純度果実酸
- ファインケミカル
- その他機能性化学品



ライフサイエンス事業

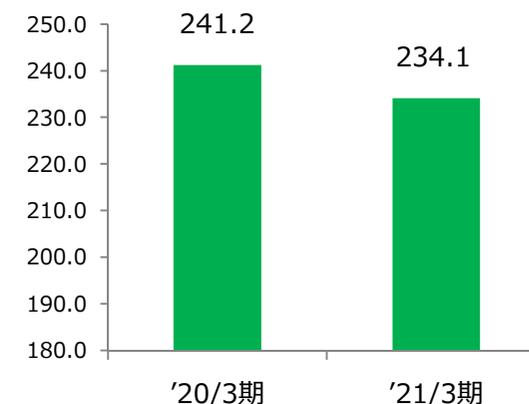
セグメント別売上高・営業利益



ライフサイエンス事業

(単位:億円)	当期実績	前期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	234.1	241.2	△7.0	△2.9%
営業利益	33.1	43.2	△10.1	△23.5%

売上高



売上高

<増加要因>

- ・リンゴ酸の輸出増

<減少要因>

- ・飲料低調などによるクエン酸類の販売減
- ・ビタミンC類の市場価格下落
- ・COVID-19の影響による工業分野での販売減（国内外）
- ・原料価格の低下に伴う販売単価の低下

営業利益

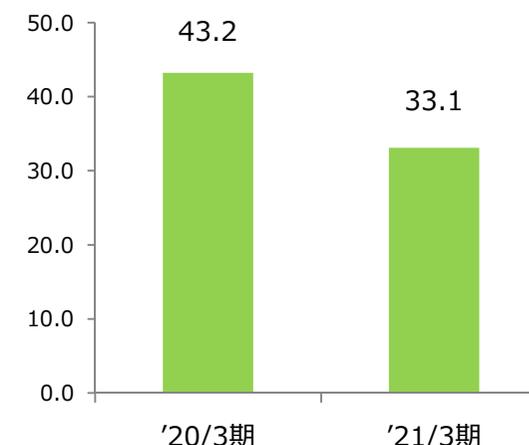
<増加要因>

- ・原料原価の低下

<減少要因>

- ・鹿島リンゴ酸設備の減価償却費増
- ・北米市場におけるGNA販売数量減に伴う原価アップでの利益率の低下

営業利益



2020年度（前年比）



売上高

- ・ リンゴ酸の輸出の増加
 - ▶北米、東南アジア、欧州で新規獲得・大幅増加（ビタミン製剤用途他）
- ・ COVID-19の影響
 - ▶家庭用洗剤、入浴剤向けの販売の増加
 - ▶（国内） インバウンド需要の減少
 - ▶（国内外） 飲料・工業用途での販売の減少
 - ▶（北米） GNA→COVID-19の影響による販売減
- ・ 原料価格の低下に伴う無水マレイン酸、フマル酸の販売単価の低下
 - ▶原料ベンゼン価格の低下
 - 【2019年】666\$/MT 【2020年】500\$/MT 《ACP 4-3月平均》

減収
減益

営業利益

- ・ 減価償却費の増加
 - ▶鹿島リンゴ酸設備の償却開始
- ・ COVID-19の影響によるPMPの販売減
 - ▶GNAの原価アップによる利益率の低下

I. 果実酸コンビナート構想の実現

II. 生産体制の再構築及び設備増強

III. 次世代新製品の早期戦列化

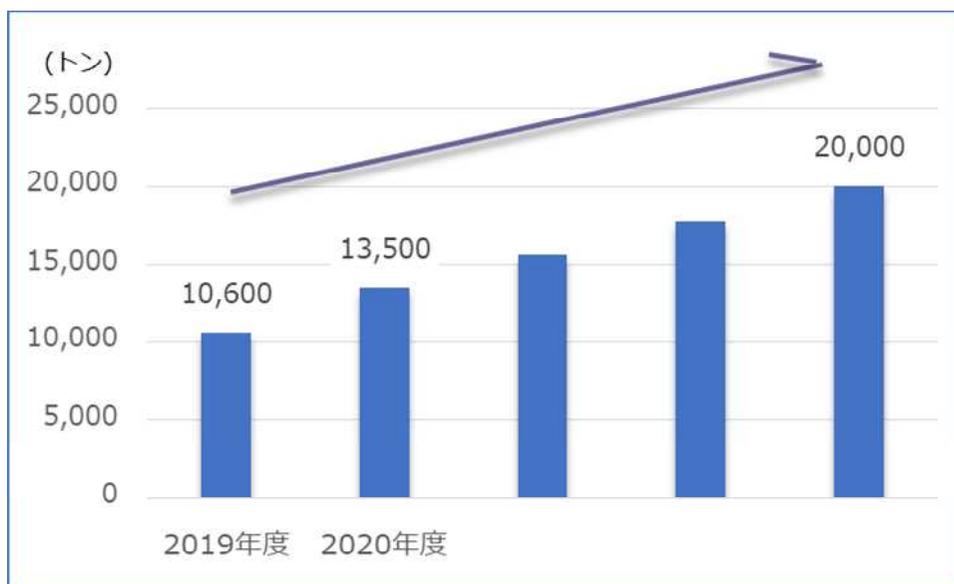
IV. FFAトップメーカーへの挑戦

I. 果実酸コンビナート構想の実現



●リンゴ酸

リンゴ酸販売実績と計画



【2020年度実績】

- ・ 北南米他での新規獲得
- ・ 欧州、北米での数量拡大

【2021年度計画】

- ・ 東南アジアでの販売拡大
- ・ 欧州、北南米での新規先定着

20,000MT/Y販売体制の確立

鹿島リンゴ酸プラント

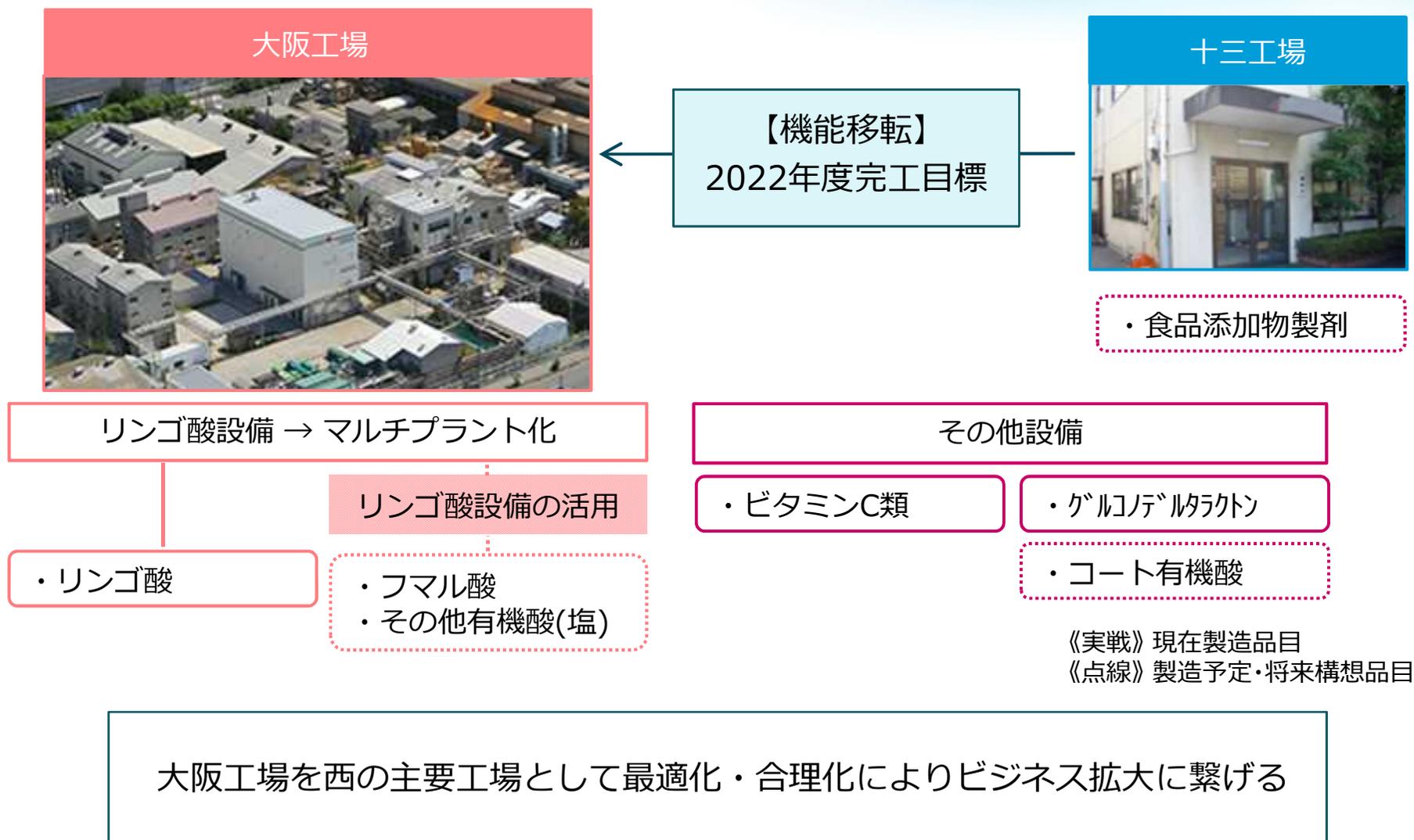
【2021年度計画】

- ・ 年間を通じた安定操業の継続

メインプラントとしての
体制確立



Ⅱ. 生産体制の再構築及び設備増強



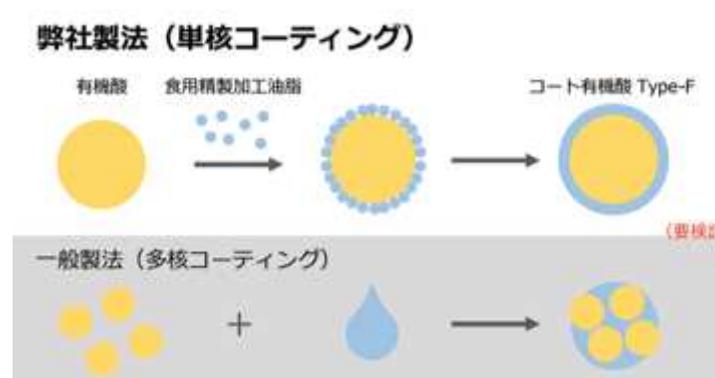
Ⅲ. 次世代新製品の早期戦列化



●コート有機酸

【2021年度計画】

- ・5月着工、9月完工予定
- ・21年12月までに上市



●バイオスティミュラント (ストレスフリー製剤)

【2020年度】

- ・自社評価で十分な再現性得られず
- ・顧客評価では好評価あり

▼
【2021年度】

- ・地域農業関連団体、大手農業資材メーカーとの提携による評価を加速し販売を拡大



無処理

ストレスフリー-Z
処理

IV. FFAトップメーカーへの挑戦

FFA

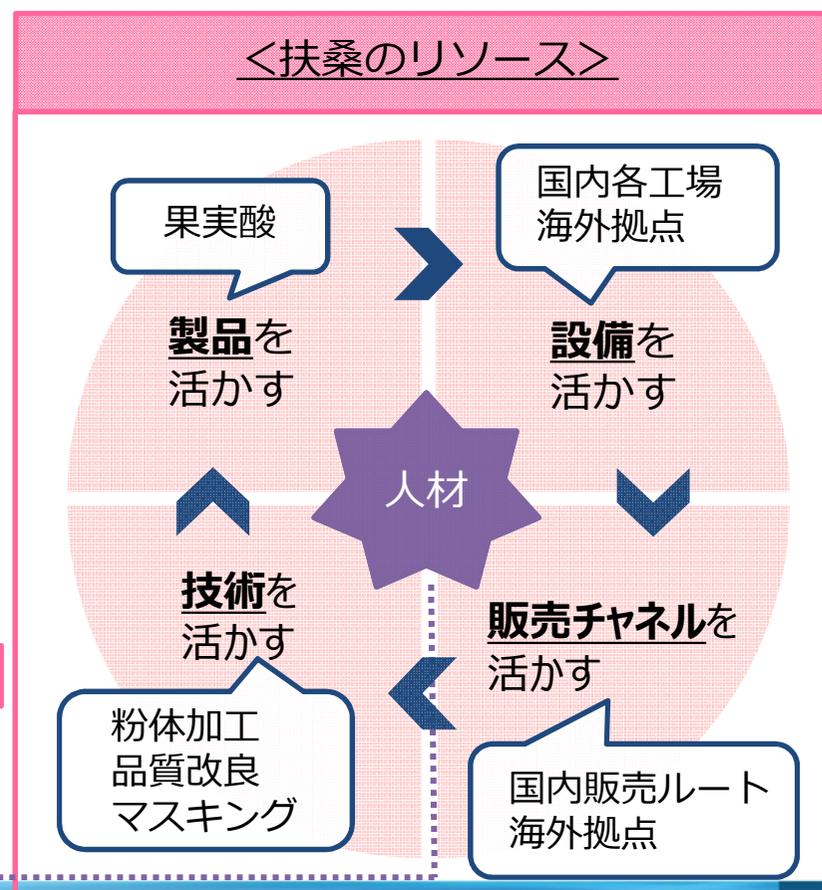
食品添加物製剤	(Formulation of Food Additives)
食品素材・食品添加物製剤	(Formulation of Food Materials and Food Additives)
機能性食品素材・食品添加物	(Functional Food Material and Food Additive)
機能性果実酸	(Functional Fruits Acid)

【背景】
食品業界を取り巻く環境は変革期に突入

- ・“Food Tech”新技術の台頭
- ・食の多様化
- ・フードロス削減意識の高まり
- ・クリーンラベル化が加速
- ・生活様式の変化
- ・健康意識の高まり

FFA領域でのビジネスを拡大
目標: 5年後3倍

・営業/開発主体のPJチーム



* 2023年度 目標

I. 売上高

◆ **275億円** (2020年度に対し17%増収)

II. 営業利益

◆ **30億円** (2020年度レベルを維持) *全社経費控除前

III. 償却前営業利益

◆ **45億円** (最高益を更新)

電子材料および 機能性化学品事業

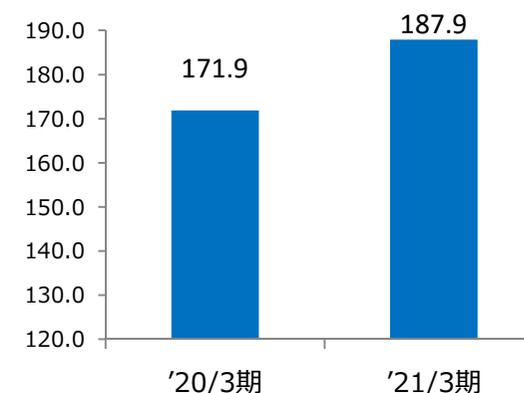
セグメント別売上高・営業利益



電子材料および機能性化学品事業

(単位:億円)	当期実績	前期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	187.9	171.9	+16.0	+9.3%
営業利益	76.4	57.4	+18.9	+33.0%

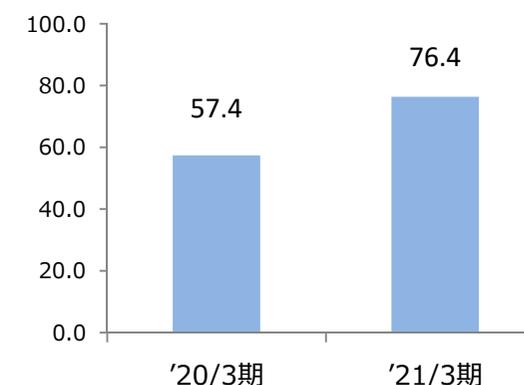
売上高



売上高
<p><増加要因></p> <ul style="list-style-type: none"> ・最先端CMP用途での採用増 ・半導体生産増加による販売量増 <p><減少要因></p> <ul style="list-style-type: none"> ・印刷需要減によるトナー用途販売量減 ・自動車の生産調整による樹脂需要減

営業利益
<p><増加要因></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産数量増による製造経費のコストダウン ・高機能グレードの構成比率増 <p><減少要因></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新設ライン洗浄に伴う水光熱費増

営業利益



2020年度（前年比）



売上高

- ・ 最先端CMP用途での採用増
 - ▶ ロジックの微細化に伴う増加
 - ▶ メモリーの高層化に伴う増加
- ・ リモートワーク、巣ごもり生活に伴う需要増
 - ▶ パソコンやゲーム機など電子機器需要増
 - ▶ 通信量増加に伴うデータセンター増設
- ・ 米中半導体対立
 - ▶ 規制強化対応による在庫水準の引き上げ
- ・ リモートワークに伴うオフィスサプライ需要減
 - ▶ オフィスでの印刷量減少に伴うトナー需要減少

営業利益

- ・ 製造経費のコストダウン
 - ▶ 生産数量増加によるスケールメリットの向上
- ・ 販売経費のコストダウン
 - ▶ 出張・訪問自粛に伴う経費減
- ・ 減価償却費減
 - ▶ ピークアウト後、減少に転換

増収
増益

I. 半導体研磨：

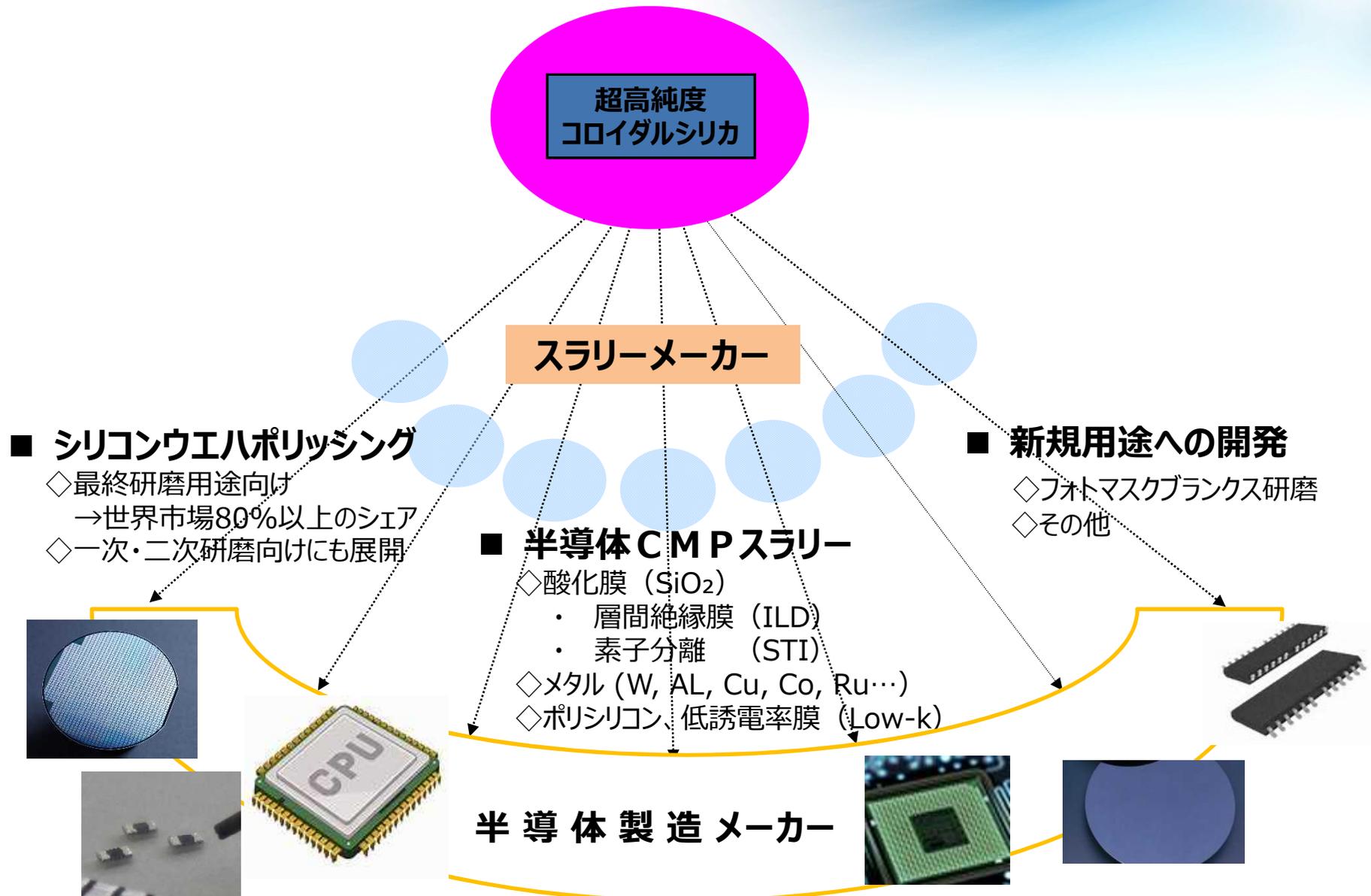
重点顧客との取組み深化、生産効率最適化、新規砥粒開発推進

II. 生産・研究・品質保証体制堅実化

顧客要求要望事項への迅速な対応、分析精度・効率向上、コスト削減

III. 機能材料：

ナノパウダーのビジネス拡大、生産体制の再構築



✓ 新型コロナの拡大により行動様式が大きく変化

- テレワーク・ウェブ会議・巣ごもり生活などにより、通信・データセンター・電子機器の需要が大きく増加。
- 従来からの自動運転などの半導体需要も加わり、半導体生産稼働率は極めて高い水準を保つ。

✓ 2021年度の見通し

- 半導体の強い需要により、半導体供給が逼迫。解消には当面時間がかかる。
- 2021年の半導体市場は、対前年8.4%の伸長が予測されている。(WSTS 2020秋季半導体市場予測)
- 各半導体メーカーの製造設備増強計画により半導体製造業界は賑やかに。

✓ 地政学的リスク回避

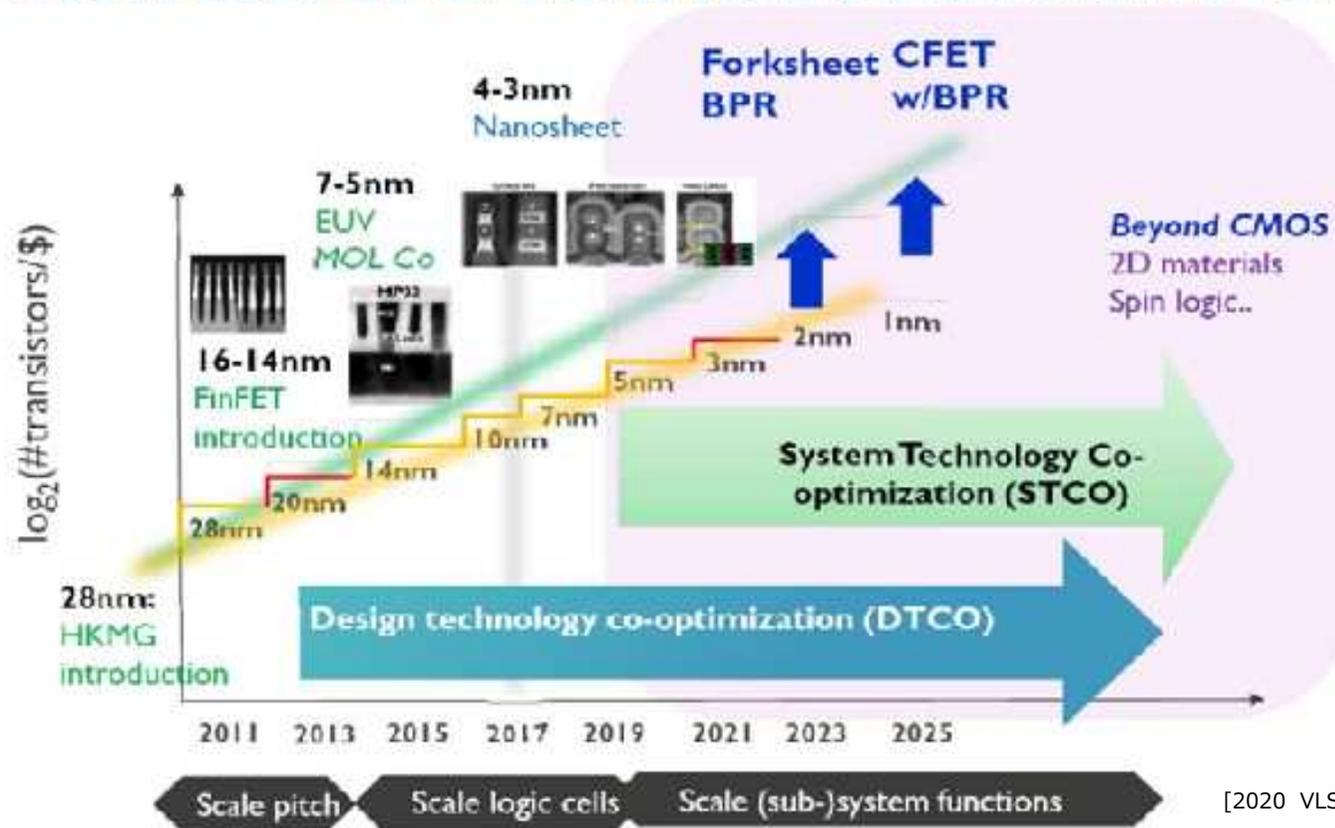
- 最先端半導体技術が国家・地域の安定に大きく影響することが明確に。
- 米国、EUも多額の産業補助金を準備し、最先端技術と製造能力の囲い込みを始める。

✓ 最先端半導体技術開発

- 最先端配線幅 2nm nodeの開発スケジュールがTSMCから発表され、技術開発が加速されている。

半導体産業動向と当社の取り組み

IMEC TECHNOLOGY OPTIONS TO ENABLE SCALING FURTHER



業界では、配線幅 1nm node迄の開発スケジュールの報告もなされている現状にあわせて、

CMPスラリー砥粒としてご使用いただく超高純度コロイダルシリカの、

- ① 更に高度化する要求品質に合わせた製品の開発を実施中です。
- ② 量産化に向けた製造技術の向上に取り組んでいます。
- ③ 一段高い製品分析能力の開発に取り組んでいます。

* 2023年度 目標

I. 売上高

◆ **230億円** (2020年度に対し22%増収)

II. 営業利益

◆ **85億円** (2020年度以上の営業利益) *全社経費控除前

III. 償却前営業利益

◆ **125億円** (2020年度に対し121%の最高益)

Ⅲ. 2022年3月期業績予想

- ◆ 新規設備稼働率・海外売上比率の上昇
- ◆ 償却前営業利益（EBITDA）の最高益更新を継続

計画
前提

- ・年間為替レート 107円想定
- ・半導体市況活況継続
- ・原材料価格の上昇

前年
実績

- ・年間為替レート 106円
- ・半導体市況回復
- ・仕入れ・原材料価格反転

(% : 対前年度同期増減率)

	売上高		営業利益		当期純利益		償却前営業利益	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比
	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)
2022.3 計画	46,500	+10.2%	10,200	+5.9%	6,950	+2.1%	14,900	+1.6%
2021.3 実績	42,209	+2.2%	9,632	+9.1%	6,808	△2.9%	14,659	+9.7%
2020.3 実績	41,310	△1.8%	8,830	△4.9%	7,014	+1.9%	13,362	+8.4%

2022年3月期 通期業績予想



(単位：億円)

	'21/3期 上期 (実績)	'21/3期 通期 (実績)	'22/3期 上期 (計画)	'22/3期 通期 (計画)
売上高	203.4	422.0	230.0	465.0
ライフサイエンス事業	113.2	234.1	131.0	261.0
電子材料および 機能性化学品事業	90.1	187.9	99.0	204.0
営業利益	46.2	96.3	50.5	102.0
ライフサイエンス事業	17.1	33.1	15.0	32.0
電子材料および 機能性化学品事業	35.7	76.4	43.0	85.0
(調整額)	△6.5	△13.2	△7.5	△15.0
経常利益	45.0	97.4	50.5	102.0
当期純利益	30.8	68.0	34.5	69.5
償却前営業利益	71.1	146.5	72.0	149.0
1株当たり当期純利益	86.9円	191.7円	97.1円	195.7円

ライフサイエンス事業

- 大阪工場 コート有機酸設備
- 十三工場 機能移転
- 鹿島事業所 更新

電子材料事業

- 京都事業所 更新

事業共通

- システム 更新

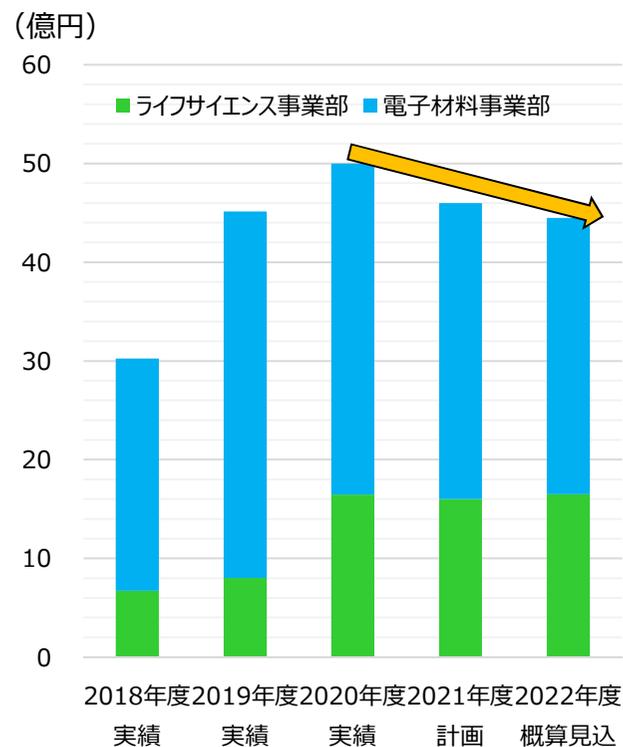
【概算金額】 180億円

- 鹿島事業所
コロイダルシリカ設備新設
2023年4月 操業開始予定



2020年度をピークに減少

- ◆ 電子材料事業部門 : 2020年度より減少に
- ◆ ライフサイエンス事業部門 : 2020年度をピークに横ばい



(単位：百万円)

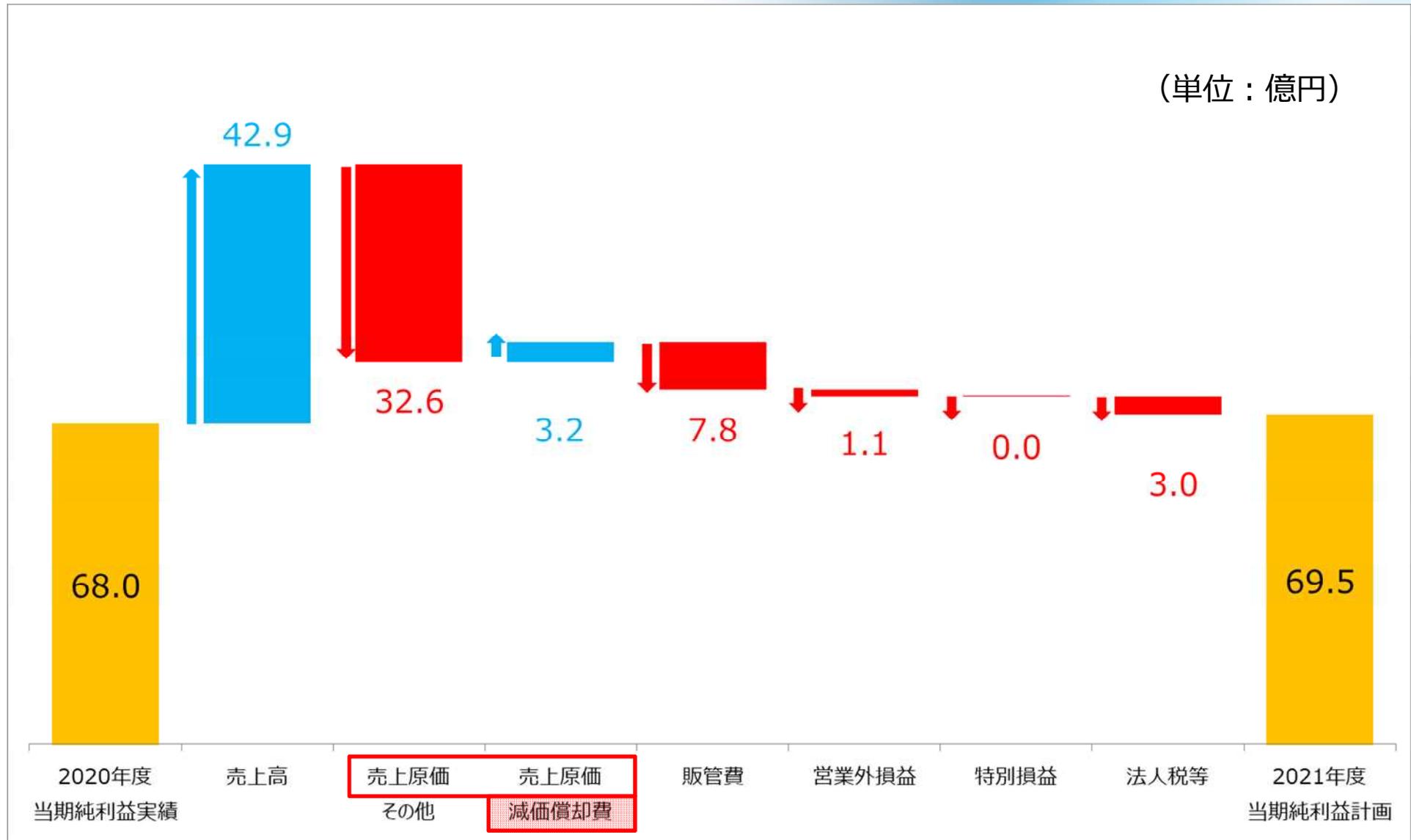
セグメント	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 計画	2022年度 概算見込
ライフサイエンス事業部	671	802	1,645	1,600	1,650
電子材料事業部	2,352	3,710	3,353	3,000	2,800
共通	20	19	28	100	150
連結合計	3,044	4,532	5,027	4,700	4,600

* 工事完了時期、追加費用、計画変更、新規投資等に伴い、概算金額変動の可能性有り。

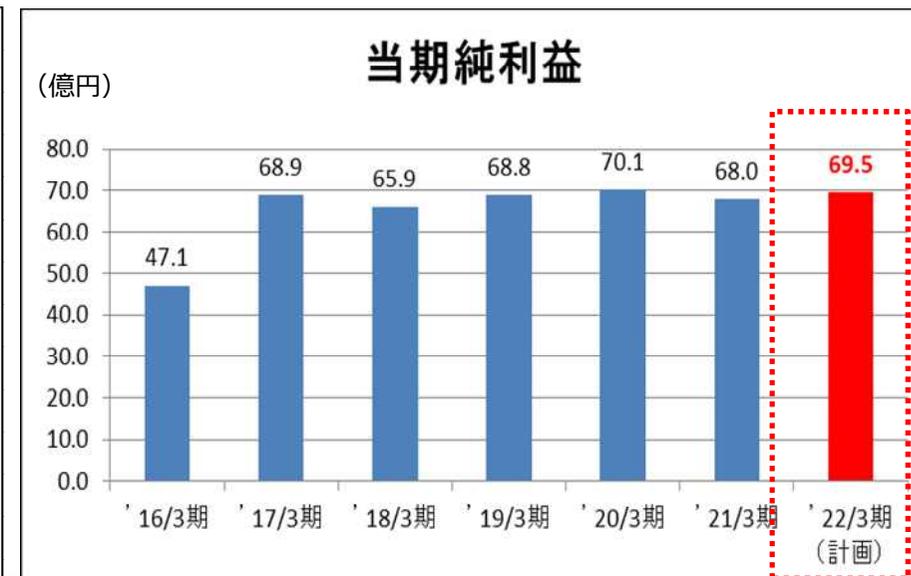
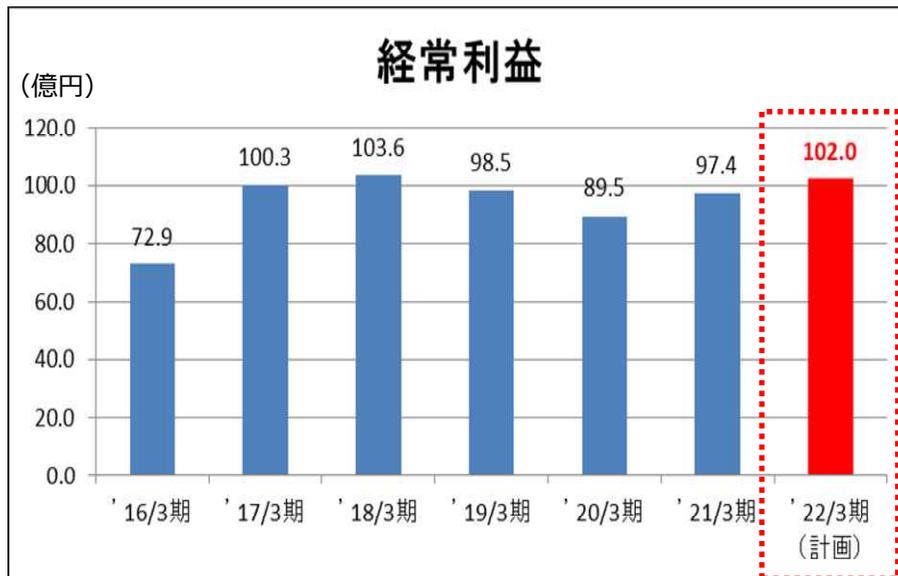
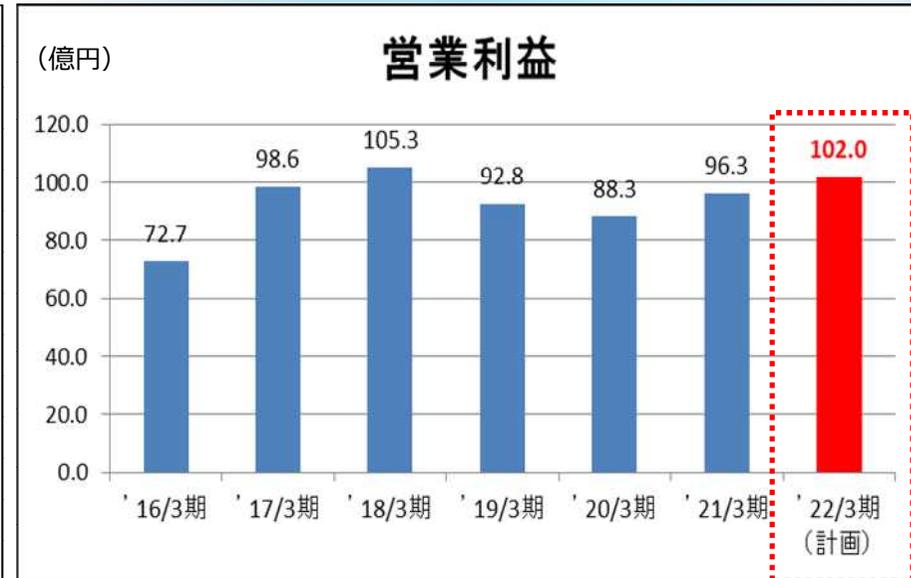
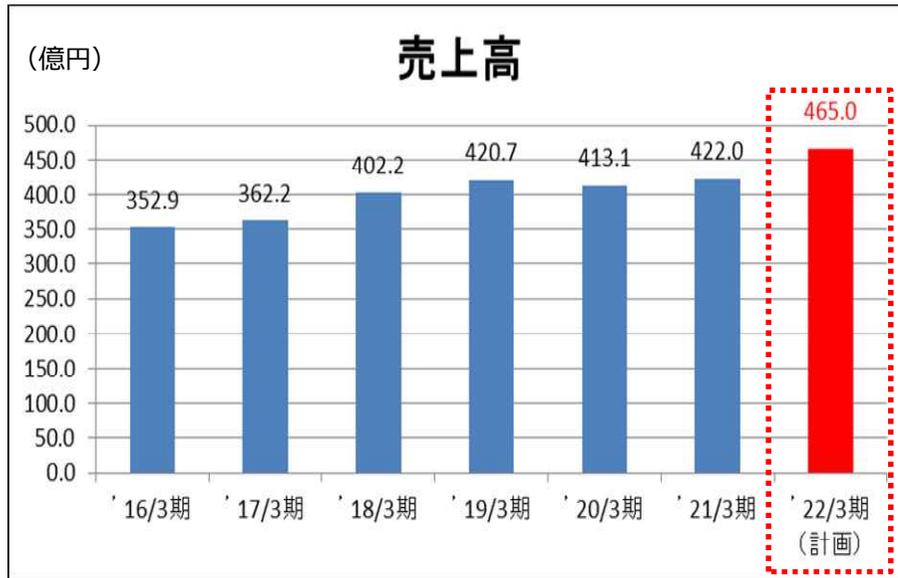
2022年3月期計画-当期純利益増減要因



(単位：億円)

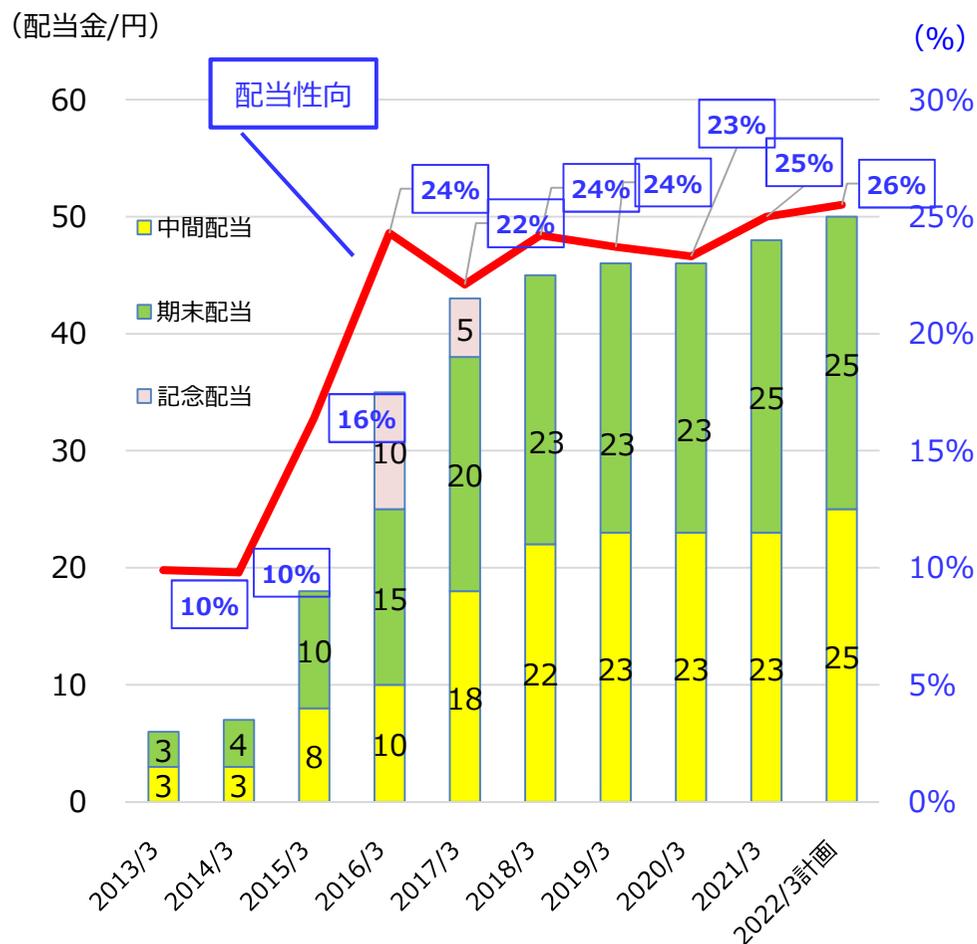


業績推移および計画



配当金

1株当たり年間配当推移*1



連続増配予定

- 2022年3月期：増配予想
 - ・普通配当金50円
(中間配当25円、期末配当25円)
- 2021年3月期：増配
 - ・普通配当金48円
(中間配当23円、期末配当25円)

配当性向、配当利回りを考慮しつつ
安定的かつ継続的な配当実施

*1：2014年10月1日付株式分割（1:5）に伴い、調整

IV. 中期経営計画

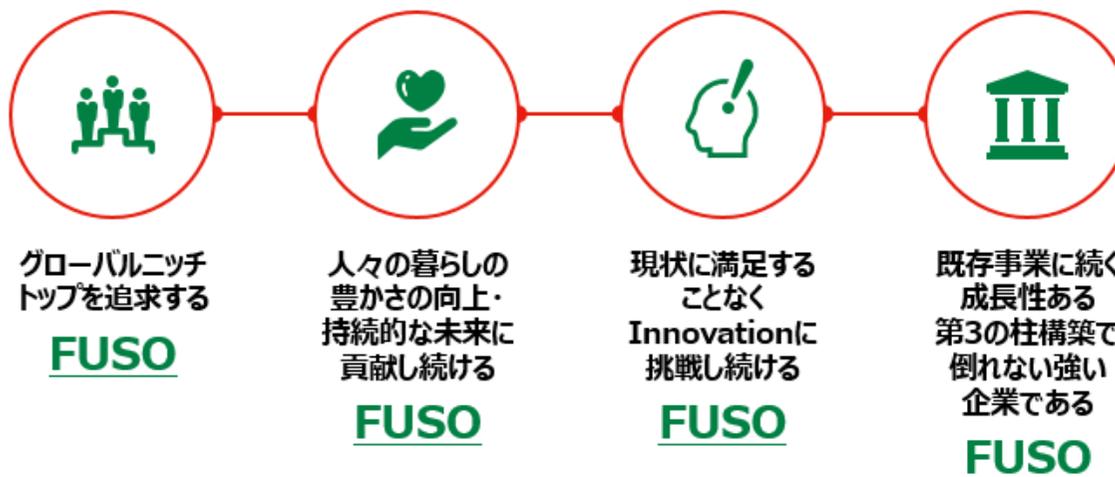
“FUSO VISION 2025”

1. 長期ビジョン

経営理念



目指す企業像



2. 中期経営計画（5ヶ年）

[中期経営計画] 概要

FUSO VISION 2025

サブテーマ

社会課題の解決に貢献する**FUSO**であるために

期間	2021年～2025年（5ヶ年の中期計画）
経営目標	売上高580億円、営業利益140億円、 償却前営業利益200億円を目指します
経営方針	<ol style="list-style-type: none">① 既存事業における拡大する需要の取り込み、着実な対応② 新規事業・分野への投資・挑戦③ 持続的成長を支える経営基盤の強化（SDGsの取り組み）

ライフサイエンス事業 事業方針

① 既存事業における拡大する需要の取り込み、着実な対応

ライフサイエンス事業 事業方針

市場環境

 食品関連	<ul style="list-style-type: none">• 食品廃棄ロスに対する問題意識の高まり• 健康に対する関心の高まり
 工業関連	<ul style="list-style-type: none">• SDGsの意識の高まり
共通	<ul style="list-style-type: none">• 国内市場の縮小• 海外市場の拡大

将来予測

 食品関連	<ul style="list-style-type: none">• 限られた食糧資源を有効利用する技術の発達• 未利用資源を食用として利用できる技術の開発• 東南アジアを中心とした人口増加と生活レベルの向上に伴う需要の拡大
 工業関連	<ul style="list-style-type: none">• 電子材料関連の市場の継続的な伸長• COVID-19の流行による需要構造の変化

事業方針

- 社会変化や課題の解決に寄与する技術と製品を提供する
- 人々の食、健康、住環境の向上に寄与する製品を提供し続ける

ライフサイエンス事業 重点戦略

ライフサイエンス事業

重点戦略	<p>国内唯一の 果実酸総合メーカーとして、 更なる基盤強化と ラインナップの拡充</p>	<p>フードテックの新技术に 対する提供価値の創出</p>	<p>海外への事業展開の 更なる強化</p>
アクション	<ul style="list-style-type: none"> • FUSO果実酸コンビナート構想の実現 • 電子材料関連に対応した高純度品の開発 	<ul style="list-style-type: none"> • FUSO製品を使用した食品有効利用技術の提案 • 高付加価値な食品素材及び食品添加物製剤の開発 	<ul style="list-style-type: none"> • 各海外拠点における現地企業への展開 • REACH規則への対応
目指す成果	<ul style="list-style-type: none"> • 安定品質、安定供給により顧客の発展に貢献 • 付加価値ある提案力により盤石なポジションを構築 	<ul style="list-style-type: none"> • フードロス削減をはじめ様々な社会課題および食の発展に貢献 • 新しい価値を持った食品開発に貢献 	<ul style="list-style-type: none"> • 中国および東南アジアの食文化多様化に貢献 • 北米市場でFUSO新商品上市によるブランド力向上 • 欧州市場でビジネス拡大、用途拡張

電子材料事業 事業方針

電子材料および機能性化学品事業 事業方針

市場環境

 <p>半導体 関連</p>  <p>情報産業 関連</p>	<ul style="list-style-type: none">・コロナウイルス禍によるリモートワークの拡大・5G、IoTの普及に伴う半導体の需要拡大・より便利で豊かさを求める消費者の増加・低消費電力をはじめとした低環境負荷への要望拡大
--	---

将来予測

 <p>半導体 関連</p>	<ul style="list-style-type: none">・新生活様式定着による半導体需要増・半導体配線の微細化と多層化による需要増
 <p>情報産業 関連</p>	<ul style="list-style-type: none">・暮らしの高機能化を支援する先端材料需要増・環境負荷を低減できる材料の普及

事業方針

- **超高純度コロイダルシリカ等の先端素材の開発・生産で、エレクトロニクス分野の高機能化で社会に貢献する**

電子材料事業 重点戦略

電子材料および機能性化学品事業

重点戦略	<p>半導体</p> <p>AI・5G・IoT・自動運転など、拡大する半導体需要への対応</p>	<p>情報産業</p> <p>低環境負荷と高付加価値を実現する材料の開発と需要の取り込み</p>	<p>機能性材料</p> <p>市場ニーズを取り入れた先端材料の開発と新規市場の開拓</p>
	<p>アクション</p> <ul style="list-style-type: none"> 需要拡大に備えた生産効率最大化及び鹿島事業所での生産能力増設の完了、稼働 配線微細化・高平坦化の進展に対応したコロイダルシリカの能力増強 	<ul style="list-style-type: none"> 顧客ニーズと技術動向の把握 他社に先駆けた新素材の開発 	<ul style="list-style-type: none"> 新技術の開発と製品の拡充
	<p>目指す成果</p> <ul style="list-style-type: none"> AI・5G・IoT・自動運転など次世代技術開発に不可欠な存在であり続ける 	<ul style="list-style-type: none"> 他社に先駆けて量産体制を構築し、新素材でのトップシェアを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 先端材料開発のパイオニアを目指すとともに、業界標準になり得る材料を開発する

中期経営方針

2 新規事業・分野への投資・挑戦

重点戦略

ライフサイエンス・電子材料に続く、
第三の柱となる新規事業確立に挑戦

アクション

- ・ 戦略的投資枠を設定
主に下記的手段を検討
 - ✓ CVCファンドへのLP出資
 - ➡ ファンドの出資先スタートアップとの協業
 - ➡ 他のLPとの協業
 - ✓ M&A
 - ✓ベンチャー企業との連携
 - ✓産学連携
 - ✓社内外でのオープンイノベーションの推進
 - ✓外部リソースの活用

目指す成果

- ・ 第3の柱確立に向けた基盤を固め、道筋をつける
長期的視野に立った事業確立を目指しており、中期経営計画期間においては
その足掛かりとして売上10億円程度の事業化を目標とする。

中期経営方針

3 持続的成長を支える経営基盤の強化

多様性の推進・意識改革

Diversity

- イノベーションを生み出せる組織風土
- 社員が活躍できる職場
(多様な視点・価値観)
- 働き方改革
(自己実現・働き甲斐)



企業責任・SDGsの取組

ESG

- コーポレートガバナンスの一層の強化
- 非財務目標の「定量化」「可視化」と
コミットメント



企業責任・SDG s の取り組み

ライフサイエンス事業部

食品素材および食品添加物製剤の開発
で食品廃棄ロスを削減する



- 排水規制を順守し環境負荷を削減
- 産業廃棄物の減量化を推進

電子材料事業部

超高純度コロイダルシリカの開発・生産で、
デバイスの高精細化・高性能化に貢献し、
社会インフラに寄与する



- 埋立ゴミを削減し山地の保全に寄与
- サプライチェーン全体の省エネとCO2削減

管理本部

健康で働きやすい環境により労働
生産性の向上を図る



- 研修・教育体制の充実
- 平等な評価・育成環境

生産拠点地域の 活性化

- 生産拠点での省エネを推進
- 再生可能エネルギー利用を拡大

新製品開発で
設備投資と技術革新を推進し、
雇用の拡大に寄与

中期経営目標（5ヶ年業績目標）

- ◆ 売上高 3割アップを目指します。
- ◆ 営業利益率 20%以上を確保します。
- ◆ 海外売上高比率 50%を目指します。



V. Q & A

Q1. 原油価格ほか原材料価格上昇に伴う事業への影響

原油価格のほかにも原材料価格、電力などの価格が上がってきております。ライフサイエンス事業におきましては、ここ数年原材料価格の低下にともなう販売価格の下落、一方利益面では増加要因として推移してきましたが、今年度は逆の局面になります。今期のベンゼン価格は、昨年度に比べ3~4割高を見込んでおりますが、直近はそれ以上の価格で推移しています。これは販売価格、売上高の面ではプラスになりますが利益面ではマイナスとなります。もちろん製造原価低減のための努力は進めますが吸収しきれないものにつきましては価格改定をお願いする事になります。また、売上・営業利益への影響はともに、数パーセント程度と想定しております。

Q2. 米国子会社PMP社の業績動向・見通しと事業全体への寄与

米国においては今年度にはコロナ禍から脱し、経済回復が見込まれております。更にバイデン新政権による250兆円のインフラ投資などの大規模な景気刺激策が期待されています。昨年度上期はコロナ禍による影響を大きく受け低調な販売となりましたが、今年度は需要回復に加え、主力製品であるグルコン酸類では積極的な価格戦略を実施し、2桁の販売増を見込んでいます。

Q3. 半導体を巡っての米中関係が及ぼす事業への影響

世界的な半導体需要は当面着実に伸びると考えております。米中の対立で中国での本格的な半導体生産は大きく遅れると見込んでおりますが、当社への影響は大きくないと考えております。当社の超高純度コロイダルシリカは主に最先端の製品に使われており、中国での需要は大きくはありません。また、中国での生産が進んだとしても最先端半導体生産にはさらに時間がかかると見込んでおります。当面は台湾、韓国、米国を中心に生産が拡大されていくと考えています。

Q4. サステナビリティを巡る課題への取り組みや開示

当社の課題は社内で十分に議論・認識されており、ESG・SDGs・環境問題も含め、それぞれのテーマに対して、新たに対応を始めています。また、関連部署の強化や組織変更を進めています。東証の市場区分見直しでは、「プライム市場」銘柄として相応しいと評価頂ける様、準備が整い次第、順次WEBで情報を開示してまいります。

本資料に記載されている、将来の見通しに関する記述・数値は、グループ各社の現時点での入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、リスクや不確定な要因も含まれており、その達成を当社として約束するものではありません。

また、実際の業績等は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、為替動向等、様々な要因により、大きく異なる可能性があります。